

週報

令和 7 年 4 月 18 日

2024～2025年度 No.28

2024-25年度 国際ロータリーのテーマ

Rotary



国際ロータリー会長
ステファニーA.アーチック



ロータリーの
マジック

プログラム

S A A 西上裕一郎君

☆点 鐘

☆ロータリーソング斉唱

「それでこそロータリー」

☆四つのテスト唱和 職業奉仕委員会

☆食 事 懇 談

☆会長の時間

☆幹 事 報 告

☆委員会報告

①親睦委員会

・スマイルボックス報告

☆部 内 卓 話

五島で今、「私たちが出来る事」

清瀧 誠司君

☆点 鐘

現 在 会 員						前々回の欠席者（4/4）							
2 9 名						9 名							
本 日	出席	1 4 名	欠席	1 1 名		免除(a)欠席	3 名	出席率	5 6 . 0 0 %				
						免除(b)欠席	1 名						
前 々 回	出席	1 5 名	MU	0 名		免除(a)MU	3 名	修 正 率	6 2 . 5 0 %				
						免除(b)MU	2 名	出 席 率					
月 別 出席率%	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	
	本年度 78.04	71.13	69.88	65.22	57.70	64.55	52.95	65.86	55.79				
	前年度 77.26	83.66	87.66	84.78	89.40	90.22	92.55	95.45	88.38	88.46	89.64	75.41	

例会場
例 会
事務所
カンパーナホテル TEL(0959)72-8111
金曜日(12時30分～13時30分)
長崎県五島市末広町8-4
福江商工会議所内 TEL(0959)72-3108

会 長 片 山 雅 文
副 会 長 柳 田 靖 夫
幹 事 有 川 真 史
雑誌・会報委員長 市 村 篤

会長の時間

会長 片山 雅文君

皆さんこんにちは。

今月6日、長崎県壱岐沖で医療用ヘリコプターが海に転覆。乗っていた患者と付き添いの息子、さらに医師のあわせて3人が死亡した事故。離島に暮らす人々の命を支える「医療搬送用ヘリ」は、今後どうなるのか？

今回の事故を受けて、より安全性の高いドクターヘリ事業、特に緊急脱出や不時着陸時の訓練が必要だと感じる。実際に、ライフジャケットを着用して膨らませるところまで自分も含めて今まで多分してなかったと思うと、千葉県で6年間フライトドクターを務めた長崎大学病院の太田黒崇伸医師は語っています。

長崎県によりますと、県のドクターヘリには非常用の救命胴衣が装備されていますが、医療行為の妨げになることから、常時装着はしていないということです。今回の事故で、乗っていた6人が事故発生時に救命胴衣を着けていたかは分かっていません。

「空の医療」は不可欠。離島医療の維持は、多くの離島がある長崎県が抱える最大の課題の一つです。県はヘリコプターを活用し、質の高い医療の提供維持に取り組んでいます。離島医療の基盤ともなっている医療搬送用ヘリの事故に、どのように向き合っていけばいいのか。

太田黒崇伸医師：「緊急性が必ずしも高くなくても、やはり長崎県本土での治療が望ましい患者は必ず一定数いらっしゃる。そうした患者のために、ドクターヘリ、あるいは医療搬送用のヘリなど『航空医療搬送』は非常に大事になってくる」

長崎県は、事故を受けて7日からドクターヘリの運航を休止しています。16日に運航再開の予定でしたが、テストフライトが実施できていないことのほか、医療機関側から要請があった海上運航時に常時着用できる救命胴衣の手配、機体の点検結果と安全面に関する詳しい説明に対応するため、運航再開の延期を発表したとしています。

運航停止以降、上五島からの搬送1件、本土地区からの搬送2件、計3件のヘリ搬送要請があり、県防災ヘリと佐賀県のドクターヘリ応援で対応したということです。

幹事報告

幹事 有川 真史君

【地区関係】

1. 長崎みなとロータリークラブより「2024～2025年度 第4回第9・第10グループ会長・幹事会のご案内」が届いております。
2. 長崎琴海ロータリークラブより「ガバナー補佐訪問について」のご案内が届いております。

今年度をもって、長崎琴海ロータリークラブの解散が正式に決定したという事で、そのご挨拶に各クラブを訪問されるという事です。

委員会報告

出席報告

◆ 4月18日（免除(a)欠席者）

植松 郁雄君 中村 博義君 橋本 武敏君

◆ 4月18日（免除(b)欠席者）

吉田 泰之君

◆ 4月18日欠席者

神之浦文彦君 小畑 和男君 才津 喜彦君

坂井 成光君 寺澤 信義君 宮脇 秀至君

森 正明君 市村 篤史君 野崎 薫君

井上 貴之君 村田 修君

親睦委員会

スマイル報告

◇清瀧 誠司君 本日は卓話させていただきます。
ご清聴よろしくお願いします。

◇片山 雅文君 清瀧誠司さん、卓話よろしくお願いします。

◇柳田 靖夫君 //

◇有川 真史君 //

◇中村 栄治君 //

◇戸田 博之君 //

◇張本 民雄君 //

◇山下 実君 //

◇山里 一郎君 //

◇平村 和弘君 //

◇松岡 孝博君 //

◇山下 克己君 //

◇西上裕一郎君 〃
◇浅野 謙君 〃
合計 14,000円
通算合計 475,000円

部 内 卓 話

五島で今、「私たちが出来る事」

清瀧 誠司君



ご存知のように、本年は「2025年問題」と言われてきました。いわゆる、「団塊の世代」800万人全員が75歳以上、つまり後期高齢者となります。その結果として、働き手が少なくなります。

又、五島市（全国の地域行政）の大きな事業の一つに「ひと・街・しごと」と言うのがあります。

その事業の人口ビジョンにおいて、統計予測における五島市の人口は、2045年には18,159人と2万人を切る事が予想されております。

それでは、2万人を切ると社会情勢がどのようになるか。医療・介護施設などの生活関連のサービス低下はもとより、小売業の減少・大型店の撤退、公共交通機関の路線廃止など、特に高齢者や学生など自家用車を持たない住民への影響が大きくなっていき、かなり住みにくい街になって行きます。

現在に於きましても、人口減少が続き極端な人手不足が続いておりますが、この人手不足は年々益々と厳しくなっていくでしょう。

まもなく、皆さんが思っているより早い時代に五島の若い卒業生が五島に残るのは、一桁台となります。

いずれにしろ、この結果として年間の地域内で消費される消費金額高は、可処分所得を加算しても大きく減少します。

それでは、人口減少をいかに抑えるか？U I ターンによる社会増の達成・出生数の減少を防ぐなどの努力も必要となりますが、この問題は行政にお願いすることとなります。私共が出来ることはサ

ポートできる程度です。

然し乍ら、私ども商工業者は地域の消費金額高が減少する中でも、事業の継続は必要であります。

そこで、我々が出来る事は何かがあるか？

又、これからの五島市の経済活性化の中心になる業種は何であるか？

それは比較的に経済のすそ野が広く、五島に適しているのは観光産業でしょう。

先ずは、島外からの需要の喚起が必要です。

人が動き流動すると、一緒にお金も流動します。今後は、人口減少を島外からの来島者が増加することによって、間接的にですが人口減少を補う必要があります

説明的になりますが、長崎県の観光客の一人当たりの消費金額高は4万5千円程度ですが、五島市の来島者の消費金額高は、素晴らしい事に6.7万円近い消費金額高となっております。

現在、国内における一人当たりの月間消費金額は可処分所得と合わせても、おおよそ拾四、五万円でありますので、来島者二人で消費金額高となり、経済の消費金額高としては島内での人口が一人増加したのと同じ結果となります。それは、来島者で人口減少を補う事が出来ると言う事でもあります。

結果として、経済の循環が多少とも大きな金額で始まります。

そこで、島には独特の文化があり、素晴らしい「人」と言う「資源」を持っております。

その上に五島市は、風光明媚な自然を活かした国立公園であり、世界遺産やジオパークなど数多くの観光資源を有しており、最近では浮体式洋上風力フィールドの視察もあります。

この観光産業を推進活性化するために、会議所では三つの事業を長崎県に要望しております。

- (1) つばき空港の給油施設を伴う空港整備
- (2) 福江港の大型客船の接岸できる岸壁の整備
- (3) 富江～大宝の国道384の観光道路としての整備

これらの要望を時間がかかっても一つ一つ実現して、これからは強力にインバウンドを含めた交流人口を増やし、消費金額を拡大して経済の循環を促進していかなければならないと考えております。

先ずは、来島者の増加を、次に消費金額高を大きく、更に滞在日数の増加を目指さなければなりません。

もうひとつできる事（DXの推進）

もう一つは、ビジネス、環境の激しい変化に対

して、とことんＩＣ化、デジタル化（いわゆるＤＸ）を推進して、数少ない限られた貴重な人材は企業の一番重要である稼げる職場に配置する事です。

更に業務の見直しを通じて、事業を再構築して新商品・サービスやビジネスモデルの開発、業種・業態転換などに取り組み、生産性を上げ、自社の経営を強化し、事業を継続して下さい。

ＤＸの達成には、多くの時間と費用が掛かります。やるのは「今です」。